



九州大学教育学部・九州教育学会共催 日本教育学会第73回大会公開シンポジウム

I. 「東アジアをつなぐ教育の可能性を探る—貧困・格差・ナショナリズムを越えて—」

II. 「“3.11”以後の世界に教育学は何を提起するのか？」

概要

平成26年8月22日（金）～24日（日）、本学での開催は四半世紀ぶりとなる、日本教育学会第73回大会が開催されます。本期間中、箱崎キャンパスにおいて、九州大学教育学部、九州教育学会との共催にて公開シンポジウムを開催いたします。

8月23日（土）のシンポジウムIでは、「東アジアをつなぐ教育の可能性を探る—貧困・格差・ナショナリズムを越えて—」と題し、「アジアの玄関口」福岡の地で、中国、韓国、日本の三国関係が抱える問題に対し、「脱欧（米）入亜」をキーワードに、教育の可能性を求めグローバルな議論を展開します。

8月24日（日）のシンポジウムIIでは、「“3.11”以後の世界に教育学は何を提起するのか？」では、東日本大震災から3年余、「復興」の足もとで発せられている、声なき声を聴くこと、経験を語り継ぐことの難しさと重みに向き合い、次世代、子どもたちの未来を見つめ、それを現実のものとしてつないでいく教育と教育学の可能性を探ります。

背景

日本の教育学研究を牽引する日本教育学会が、四半世紀ぶりに九州大学にて開催されます。九州大学教育学部（人間環境学研究院教育学部門、同学府教育システム専攻）では、転換期の現代に、教育学研究の存在意義を広く社会に問い、更なる充実と発展をめざすべく、今日において教育（学）の課題として避けて通ることのできない重いテーマについてのシンポジウムをふたつ企画しました。

なお、本シンポジウムは「九州大学基金支援助成事業 社会との連携活動支援」の助成を受けて実施します。

内容

【シンポジウムI：東アジアをつなぐ教育の可能性を探る—貧困・格差・ナショナリズムを越えて—】

「アジアの玄関」としての地の利を活かし、本学教育学部が日頃から教育・研究交流を続けている中国及び韓国からの研究者を招へいし、国境を越えた（cross-national）ディスカッションとなります。各国が抱える貧困、格差の問題と、ナショナリズム、そして歴史教育におけるお互いの国家像、歴史像という深刻な問題に、教育と教育学は、未来に希望をつなげることはできるでしょうか。

日時：平成26年8月23日（土）15:00～18:00

会場：九州大学箱崎キャンパス 文系地区 大講義室

定員：500名（事前申込は不要です。大講義室前の受付にお越しください。）

参加費：500円（資料代） ※日本教育学会第73回大会参加費を支払った方は無料。

通訳：中国語と日本語、韓国語と日本語の通訳（逐語）がつきます。

対象者：公開シンポジウムですので、どなたでもご参加いただけます。

15:00～15:10 趣旨説明

15:10～15:30 阿古智子（東京大学）

「中国と日本—国境を越えた公共圏の形成を展望する」

15:30～15:50 楊彪（中国 華東師範大学）※日本語通訳による

「中国における歴史教育の中の日本：東アジア各国を繋ぐ教育に関する考察」

15:50～16:10 李達雨（韓国 公州大学校）※日本語通訳による

「地球村作りと教育の役割」

16:10～16:25 広田照幸（日本大学） 指定討論

16:25～16:45 休憩
16:45～17:15 指定討論に対するシンポジストからの応答
17:15～18:00 全体討論

司 会： 上藺恒太郎（長崎総合科学大学）、Edward Vickers（九州大学）

【シンポジウムⅡ：“3.11”以後の世界に教育学は何を提起するのか？】

大震災の被害を直下で経験しなかった九州、一方、東北同様現代史に様々な傷を抱えてきた九州であるからこそ問わねばならないことがある、という思いから立ち上がりました。南三陸出身で新進気鋭の東北学研究者であり当事者でもある方の声と、水俣という経験とその記憶の複雑さ、重層的な声に生涯を賭して挑む水俣学第一人者の語りに、いのちの文化人類学研究のトップランナーが耳を傾け、私たちひとりひとりが子どもを通じた未来を見据えていくための道筋を探ります。

学会大会としての自由研究発表や、学会の取組としての特別課題研究、ラウンドテーブルなどの議論の促進とともに、以上のようなシンポジウムを、教育学者のみならず、他領域研究者、教育関係者、また一般市民の方々にひろく公開することにより、教育学の進展と、これらの重要なテーマについての議論の深まりを期しています。

日 時：平成 26 年 8 月 24 日（日）13:30～16:30

会 場：九州大学箱崎キャンパス 文系地区 大講義室

定 員：500 名（事前申込は不要です。大講義室前の受付にお越しく下さい。）

参加費：500 円（資料代） ※日本教育学会第 73 回大会参加費を支払った方は無料。

対象者：公開シンポジウムですので、どなたでもご参加いただけます。

13:30～13:40 趣旨説明

13:40～14:10 山内明美（大正大学）

「遍在する＜東北＞—いくつもの名前、いくつもの言葉、そしていくつもの故郷—」

14:10～14:40 花田昌宣（熊本学園大学水俣学研究センター）

「被害の現場に身を置くということ：水俣学の構築の経験から」

14:40～15:10 波平恵美子

「子どもが拓く未来への地平」

15:10～15:30 田中孝彦（武庫川女子大学） コメンテーター

15:30～15:45 休憩

15:45～16:30 全体討論（コメンテーターへのシンポジストからの応答を含む）

司 会： 加藤守通（上智大学）、新谷恭明（九州大学）

※23 日（土）、24 日（日）両日とも参加される場合は、それぞれ 500 円お支払い願います。

※報道関係者の方は、事前にご連絡ください。

■参考 Web サイト

・日本教育学会第 73 回大会

<http://www.jera73.jp/>

・公開シンポジウム概要

http://www.jera73.jp/04_01.html

【お問い合わせ】

日本教育学会第 73 回大会準備委員会（実行小委員会）

Mail：taikai@jera73.jp

九州大学大学院人間環境学研究院

教育学部門 教授 野々村淑子

電話：092-642-3117

FAX：092-642-3117

Mail：nonomura.toshiko.868@m.kyushu-u.ac.jp

The 73rd
Annual Conference of Japanese Educational
Research Association **Symposium**

**01 東アジアをつなぐ教育の可能性を探る
— 貧困・格差・ナショナリズムを越えて —**

2014.8.23 (Sat.) 15:00--18:00

会場：九州大学箱崎キャンパス 文系地区 大講義室 参加費(資料代)：500円

日本のなかで朝鮮半島やアジア大陸に地理的に近く、歴史的にもつながりが深い「アジアの玄関口」として知られる、九州の福岡という地で、東アジアをつなぐ教育の可能性を考えていきます

▼ 登壇者

阿古智子 (東京大学)
楊彪 (中国 華東師範大学)
李達雨 (韓国 公州大学校)

▼ 指定討論者

広田照幸 (日本大学)

▼ 司会

上蘭恒太郎 (長崎大学)
Edward Vickers (九州大学)

**02 “3.11” 以後の世界に
教育学は何を提起するのか？**

2014.8.24 (Sun.) 13:30--16:30

会場：九州大学箱崎キャンパス 文系地区 大講義室 参加費(資料代)：500円

未曾有の災害である“3.11”以後の教育学の課題について考えるとともに“3.11”を巡る諸状況についてどのように「聴き」「語る」のかという、教育と教育学を貫く問いについて議論していきます

▼ 登壇者

山内明美 (大正大学)
花田昌宣 (熊本学園大学水俣学研究センター)
波平恵美子 (お茶の水女子大学(名))

▼ コメンテーター

田中孝彦 (武庫川女子大学)

▼ 司会

加藤守通 (上智大学)
新谷恭明 (九州大学)

問い合わせ先

日本教育学会第73回大会準備委員会
taikai@jera73.jp